

帝銀事件と登戸研究所資料館

秘められた戦争の遺産を知って学ぶ

2019/02/23

作成者 川崎の産業観光を支援する会の事務局 根岸雅明



川崎の産業観光を支援する会
帝銀事件と登戸研究所資料館の見学の記録

【概要】2018年11月から2019年3月末（5月まで延長）に明治大学平和教育登戸研究所資料館で第9回帝銀事件と登戸研究所の企画展の案内が資料館から送られてきました。会員にこの件をご案内した所、ぜひツアーを企画してくださいとの要望がありました。

そこで今回、特別プログラムの「帝銀事件 死刑囚」の上映会に合わせて見学会を実施しました。応募はすぐに定員になる盛況で驚きました。71年前の帝銀事件で使われた毒物がこの登戸研究所で開発された青酸ニトリールとの疑いがあり、戦争による負の遺産も我々はしっかりと事実を知って見つめ考えるということを目的に実施しました。以下はその記録です。

【日付】平成31年2月23日（土）10:00～15:30

【目的】帝銀事件で使用されたとされる毒物がこの陸軍登戸研究所で開発されたとの疑いと当時の登戸研究所の活動実態を知って学び考える。

【概要】登戸資料館での特別企画展での展示パネルや資料及び捜査状況のビデオ鑑賞
メデアーホールにて「帝銀事件 死刑囚」映画鑑賞。1964年上映。熊井啓監督。
渡辺賢二さん（研究者）と山田朗さん（館長）のトークショー。

【人数】22人（男性14人、女性8人）

【場所】登戸研究所資料館…川崎市多摩区東三田1-1-1
明治大学生田校舎中央校舎メデアーホール6F

【感想】小田急線生田駅に10時に集合して登戸研究所資料館に向かう。資料館前で記念撮影。館内に入り学芸員の方から企画展のおもなパネルや資料の見方、展示順序などを教えていただく。

渡辺賢二さん（元法政二校の先生）から登戸研究所の立地条件やこの場所になぜ建てられたかのいきさつなどのミニ講義をいただきました。日本電気や東芝などの電機メーカーや印刷工場の東京機械などがこの付近にあったという。

風船爆弾や偽札作り、暗殺用の毒薬の開発などを行っていたとの説明も受けました。陸軍では〇〇〇部隊などと番号で呼ばれているのが通称であるが、この登戸研究所（防諜、諜報、謀略、宣伝などの秘密戦の研究）と中野学校（スパイ養成所）、習志野学校（化学兵器を扱う養成所）は地名が使われているのはこの3つだけであると説明されていたのが面白かった。理由はよく理解できませんでしたが外部へ活動情報が知られないためとだと聞き取りました。事実とは違うかもしれません。

11時から容疑者平沢貞通と捜査官との取調べ状況のデモンストラーションビデオを約20分間鑑賞。ビデオは取調べ調書から映像に再現したもの。捜査官と容疑者とのやり取りの心理描写がよく理解できた。文章で読み解くよりも理解が深まるなど

思いました。

資料館では午後の上映会が混雑すると予測されてメディアホールにて事前に整理券を渡すとお知らせを受けてそちらに移動して各自整理券をもらい、3Fの学食へ移動。各自好きなメニューを選びお昼としました。

昼食後、メディアホールに移動。受付前の時間なのに大勢の人が会場の入口の廊下に溢れていました。皆さんこんなにも関心があるのだと驚きました。

280人の会場は満杯。立見席も立錐の余地もないほどでした。主催者側も驚き緊急に同じフロアにある部屋を二つ用意しました。部屋には映像を映す装置（ディスプレイ）が用意されているようだ。立ち見のお客さんもそちらの部屋に移動されました。さすがに大きな大学だなと思いました。映画は約2時間もあり立ち見ではつらいなと思いました。

山田館長からは5月までに企画展の延長と上映会を5月に開催しますとのアナウンスがありました。企画展も後半になってより皆さんの関心が深まってきた証なのでしょうか。これも驚きでした。

1948年1月26日の帝銀事件のニュースが流れ、映画が始まる。白黒映画でとてもリアルである。映画を観て感じたことは新聞記者が戦争に従事した将校に聞き取り調査に行く場面。将校は喋らない。新聞記者と殴り合いが始まる。将校の言い分は勝つための最高の機関で働き誇りを持ち、命がけで戦い、なぜ敗戦後、糾弾されなければならないのかとの叫び。この辺の脚本を書いた熊井啓監督は見事だなと思いました。多くの兵士の偽らざる心境だと思いました。

新聞記者達の真実を熱く追求していく姿勢も良く表現されていました。GHQからの圧力がかかる場面も面白かった。

大衆というものもむごいなと思いました。容疑者の平沢が逮捕されると容赦なく家族に辛い仕打ちが始まる。大衆の心理描写も良く表現されていました。新聞記者がまだ犯人ではない。裁判で事実が明らかになると大衆を一喝する場面もとても印象的でした。新聞も過っては戦争をあおっていたとの自己批判を述べていたのが印象的でした。

映画の最後にナレーションが入り「人間は人間を裁く。人間は真実をつかんだことがあつたらうか…」との意味深な言葉をなげかけて映画が終わる。

映画終了後の渡辺さんと山田さんとのトークショーもとても面白かったです。登戸研究所で開発された青酸ニトリールは自決用と称して300本くらいに関係者に渡されたと話されました。これらの中から習志野学校や登戸研究所や軍関係者で働いていた真犯人が使ったのかもしれないとの想像が広がります。中国の捕虜の人体実験につかわれた実績もあり、毒物を飲ませる方法のマニュアルもあり、習志野では訓練されていたということも事実のようだ。プロの仕業であることが濃厚であり、素人の平沢が犯人に仕立て上げられたのかと想像します。

エリートたちの司法の裁きにも疑問を感じました。自白だけの捜査の危うさが浮き彫りにされました。当時の捜査ではなかなか現場が混乱して科学的な証拠が不十分だった事が容疑者平沢にとって不幸だったとも言えるのでしょうか。とてもいい映画とトークショーでした。トークショーは時間切れで終わりましたので、続きを5月4日の講演会を聞きに行きたいと思いました。

皆さんはどんな思いで観られたでしょうか。ご参加ありがとうございました。

【写真】



小田急線生田駅 10時に集合して登戸研究所資料館へ



見学会の参加の皆さんと。登戸研究所資料館前にて



館内で学芸員の方から企画展の見どころを紹介していただく。
渡辺先生より特別に登戸研究所の成立ちなどをお教えてくださいました。



明治大学の学食。土曜日なので比較的生徒が少なく、すいていました。
メニューはとても安いお値段でした。



280人のメディアホールの会場は満席でした。このほかに映画が見られる部屋を2部屋用意されました。みなさんの関心の深さに驚きました。



渡辺先生と山田館長のトークショー。とても聞きごたえのある面白いトークショーでした。時間切れで終わりましたのでご興味のある方は5月4日に再度おこしく下さいとの事でした。ぜひ聞きたいと思いました。

山田館長は今回で特別展は9回目になるが登戸研究所の話題は尽きないとおっしゃっていました。戦争による暗部の世界をドンドン明らかにしていただきたいと思いました。新たな観点で戦争を考えるきっかけとしたいと思いました。

みなさんのご参加ありがとうございました。

【アンケート】山部様よりまとめていただきました。

男性からの回答は

- ・帝銀事件は名前だけは知っていたが登戸研究所との繋がりは知らなかった。又映画だけでなく展示や解説がとても良かった。
- ・生田浄水との関連が分かった。
- ・今回の見学会で「帝銀事件の謎」深まった。
- ・今回の興味深いテーマの企画に感謝、また明大と登戸研究所の施設見学も含め大いに勉強なった。
- ・渡辺先生のお話が見学に非常に役立った。

女性からの回答は

- ・今回の見学会で帝銀事件について良く分かった。登戸研究所を見学して風船爆弾や贗札づくりで長沢浄水場が関連していることが分かり勉強になった。
- ・今回のテーマ大変興味深い内容でした。事前にメールで「小説帝銀事件」を読んでおくと良いとお聞きしましたので予備知識が得られてとても役にたった。

皆様からのアンケートのご協力ありがとうございました。